

2007年4月23日

新日本製鐵株式会社

株式会社 ポスコ

学習絵本（新日鉄・POSCO 共同編集、日韓特別版）

『鬼とドッケビの新・モノ語り』の発行について

新日本製鐵株式会社（社長：三村明夫、以下新日鉄）と株式会社ポスコ（会長：李龜澤、以下 POSCO）は、このたび小中学生などを対象に、鉄作りを中心とした日韓の文化交流の歴史をわかりやすく紹介した学習絵本（日韓特別版）を発行しました。

新日鉄と POSCO は、2000年8月株式の相互保有を含めた戦略的提携を締結して以降、各部門にて積極的に戦略的提携を推進してきました。広報部門でも人材育成を目的とした若手管理職の相互派遣や、広報誌での特集企画を行ってきました。こうした取組みの深化・拡大に向けて、今回両社が共同で、学習絵本（日韓特別版）『鬼とドッケビの新・モノ語り』の企画・編集を行いました。

一方これまで新日鉄では学習絵本『新・モノ語りシリーズ』（1～6巻）を発行し、地球環境を大切にしながら豊かで快適な生活を送ることや、鉄づくりを通じて科学の世界を理解しその楽しさを知ってもらうことなどをテーマにしてきました。製鉄所見学・展示会・科学館などで無料配布し、合計で53万5千部を発行。子供たちの他、学校関係者、保護者、地域でボランティア活動をする皆様などから多くの反響をいただきました。今回の日韓特別版は絵本第7巻目となります。

今回の学習絵本では、日本の製鉄技術が古代の朝鮮半島から伝わり日本で発展した歴史を、「鬼（韓国語でドッケビ）」や「福の棒（日本の打ち出の小槌に相当）」に託して、おとぎ話として伝えています。執筆は日韓両国の文化・言語に詳しい POSCO 人材開発院教授で作家の李寧熙さんに、挿絵は学習絵本『新・モノ語り』第4巻でも担当いただいた在日韓国人画家金斗鉉さんをお願いしました。また日韓両国の子供たちにお互いの文化・言語を学び日韓の友好関係を一層深めてもらう意味を込めて、日韓両国語併記としました。

今後、各製鉄所での小中学生の工場見学会や、各種展示会などで無料配布します。ご希望の方には無料で郵送致します（下記までお申込み下さい）。

< 『鬼とドッケビの新・モノ語り』の概要 >

発行月　：2007年4月

発行部数：初版5万部（日本）、初版1万部（韓国）

体裁　　：A6判、カラー64ページ

発行者　：新日鉄総務部広報センター、POSCO 弘報室

執筆　　：李寧熙（POSCO 人材開発院教授、作家）

挿絵　　：金斗鉉

ストーリー：

ずっとずっと昔のそのまた昔。韓国に、おすもうさんのように大きく、角が1本生えた鬼が住んでいました。鬼たちは、欲しい物が何でも出せる「福の棒（打ち出の小槌）」を持っていて、村の人たちに斧や鎌などを出してあげました。この鬼は、見上げるほど大きいと言う意味の「ドッケビ」と呼ばれていました。

古代韓国は、頑丈な鉄の農機具や武器をつくって栄えていました。この鉄づくりの技術者たちは、ドッケビと呼ばれた鬼のように、背が高くて大きくて、長い髪を頭の上に角のように一つにまとめて結んでいました。鉄づくりで、赤や青の炎に照らし出された姿は赤鬼・青鬼のよう。刀や斧をつくるため鉄をたたく槌はまるで「福の棒」のようです。鉄は貴重品だったので、鉄があればご馳走も服も何でも手に入れました。

ドッケビの親方は、鉄づくりに必要な砂鉄や木が豊富で、まだ人々が鉄づくりを知らない海の向こうの日本に行こうと思立ちました。ドッケビたちは、韓国語で大きい人という意味の「オンニ」と呼ばれ、それがなまって「おに」と呼ばれるようになったといわれています。

日本と韓国の昔話には鬼が登場します。日本では、子供の守り神として鬼のお祭りがあります。昔、人々のために鉄をつくっていた鬼たちは、今、お祭りやお話の中で子供たちを守りながら生きているのです。

<お問い合わせ先>

新日本製鉄 総務部広報センター（電話 03-3275-5016）

POSCO JAPAN（電話 03-3546-1212）